

## 新興国資産

## 新興国株式市場の動向と見通し

Asset  
Management

## 概要

- 足元、一部の新興国通貨が急落するも、この影響が他の新興国全般に波及するリスクは小さいと想定
- 2018年は新興国にとって苦しい展開となるなか、新興国株式の下落は相対的に軽微
- 短期的には投資家心理の更なる悪化がリスク要因だが、新興国の堅調な企業収益や良好なファンダメンタルズに鑑みると、現在の水準には投資妙味が存在すると考える



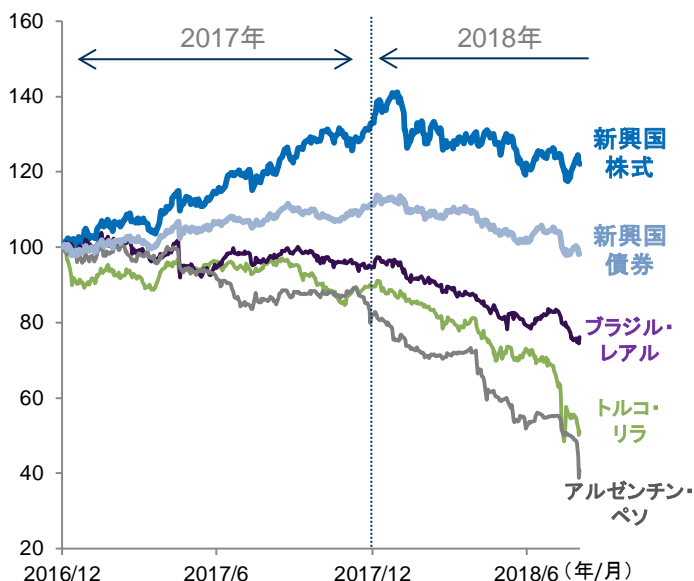
## 一部の新興国通貨への逆風のなか、株式の損失は相対的に軽微に留まる

トルコやアルゼンチンなど特有の事情を抱えた一部の新興国通貨が急落し、投資家心理が悪化したことから、年初来の新興国資産は弱含む展開となっています。新興国資産が大きく上昇した2017年と異なり、2018年は苦しい展開が続いていますが、ファンダメンタルズの観点からは、今回の問題が他国に大きく波及するリスクは小さいと想定しています。

2018年初来の動きを見ると、新興国全体への分散投資においては、単一通貨と比べ損失が抑制されていることが分かります。特に新興国株式においては、アジアの構成比率が高く、トルコなど東欧通貨の下落の影響が小さかったことから、相対的に軽微な下落幅に留まっています（尚、アルゼンチンは新興国株式指数の構成国に含まれていません）。

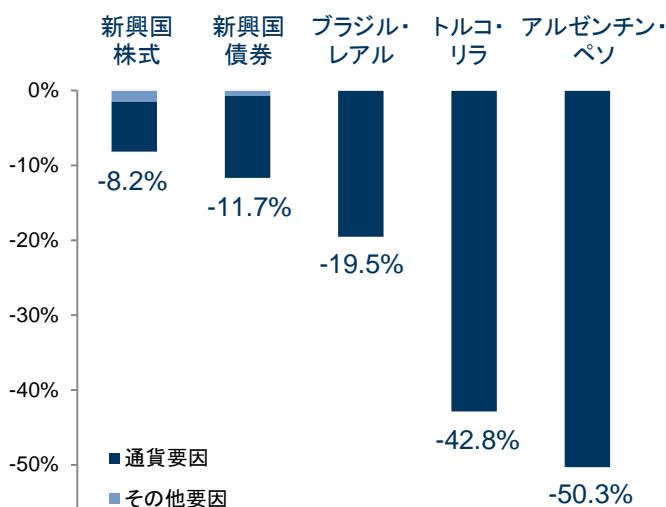
## 新興国資産および通貨の推移

(資産は円ベース、通貨は対円レート)



## 2018年初来の騰落率

(資産は円ベース、通貨は対円レート)



新興国株式: MSCIエマージング・マーケット・インデックス、新興国債券: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド  
 期間: [左図]2016年12月末~2018年8月末(2016年12月末を100として指数化) [右図]2017年末~2018年8月末  
 出所: ブルームバーグ

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。弊社及びゴールドマン・サックス・グループで投資運用業務を行う関係法人を総称して「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント」あるいは「GSAM」と呼ぶことがあります。上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。© 2018 Goldman Sachs. All rights reserved. <144846-OTU-838818>



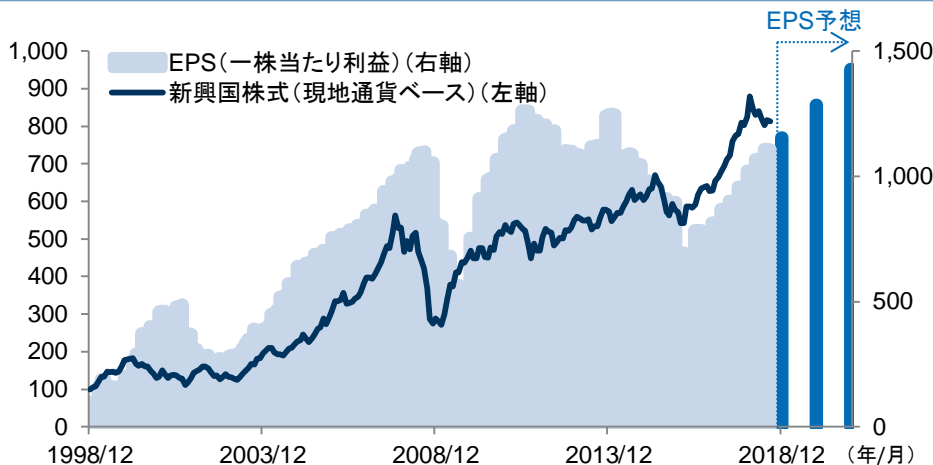
## 新興国株式の今後の見通し

トルコやアルゼンチンなどマクロ経済の脆弱性を抱える一部の国に対しては慎重な姿勢が必要であり、短期的には投資家心理の更なる悪化により新興国市場全体が弱含む局面も想定されますが、堅調な企業収益や良好なファンダメンタルズに鑑みると、現在の水準には中長期的に投資妙味が存在すると考えています。

### 新興国の株価を支える企業収益は今後も順調に増大する予想

直近の新興国への逆風を受けても、新興国の企業収益は今後も堅調に拡大し、過去最高値を更新する見通しです。一部の軟調な通貨に関しては引き続き警戒が必要なものの、新興国の株価に関しては企業収益の拡大と共に上昇が期待できます。

#### 新興国株式のパフォーマンスとEPS(一株当たり利益)の推移

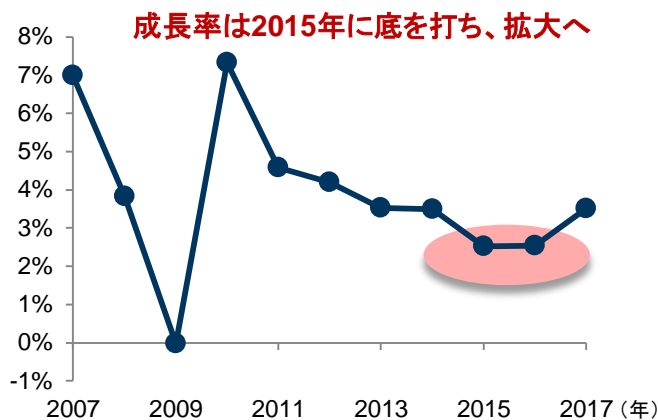


新興国株式: MSCIエマージング・マーケット・インデックス(現地通貨ベース) 期間: 1998年12月末~2018年8月末(共に1998年12月末を100として指数化)。2018年以降のEPSは2018年9月17時点のコンセンサス予想 出所: ブルームバーグ

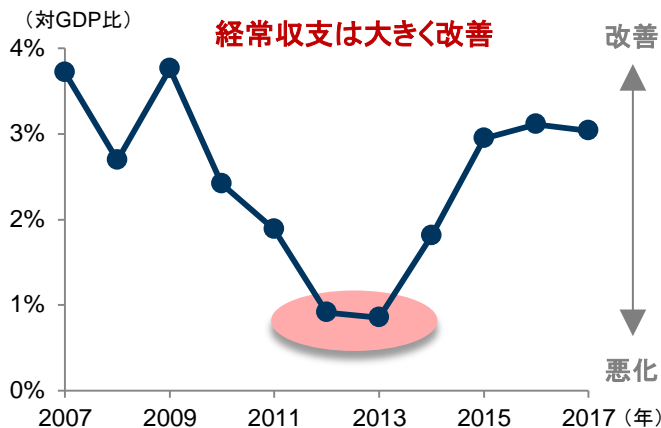
### ファンダメンタルズの健全化が進み、引き続き中長期的に魅力的な投資対象

新興国の経済は拡大へと転じており、経常収支などのファンダメンタルズも健全化が進んでいることから、新興国資産は引き続き、中長期的に魅力的な投資対象であると考えます。

#### 新興国の経済(GDP)成長率



#### 新興国の経常収支の推移



MSCIエマージング・マーケット・インデックス構成国の上位10カ国の単純平均。  
期間: 2007年~2017年 出所: IMF(国際通貨基金) World Economic Outlook, April 2018

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。))が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。弊社及びゴールドマン・サックス・グループで投資運用業務を行う関係法人を総称して「ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント」あるいは「GSAM」と呼ぶことがあります。上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。© 2018 Goldman Sachs. All rights reserved. <144846-OTU-838818>